



児童らとのミニゲームでプロの技を披露する枝村選手

エスパルスの枝村選手がやって来た

■枝村選手との交流会／片浜小学校

本市出身でサッカーJリーグ清水エスパルスに所属する枝村匠馬選手との交流会が1月11日、片浜小学校で行われ、全校児童38人が参加しました。地元で貢献したいという同選手の思いで平成18年度から始まった本事業は、同校への訪問をもって市内全小学校への訪問が終了。同選手は、サッカーを始めたきっかけなど児童からインタビューを受けた後、ボールを使ってリフティングやパス、豪快なシュートを披露。ミニゲームなどで交流を深め、プロの技術で児童らを魅了しました。

1年の無病息災を祈る

■どんど焼き／牧之原保育園

牧之原保育園は1月10日、園庭でどんど焼きを行い、園児68人が参加しました。

これは、年末に園児らが作成した正月飾りを持ち寄って燃やす同園の恒例行事で、園児らは順番にお飾りを火の中に入れて燃やし、その煙を体に浴びて、今年1年の無病息災を祈りました。

園児らは、燃やした火で焼いた餅にノリを巻きしょうゆを付け、磯辺焼きにして「熱いけどおいしい。お餅大好き」とうれしそうに食べていました。



どんど焼きの火で餅を焼く園児ら

楽しい会話も献立の一つ

■給食週間に伴う給食参観／川崎小学校

市長をはじめとする市職員や教育委員ら19人は1月25日、市内13校の小中学校を訪れ、1月24日から1月30日の全国学校給食週間に合わせて、子どもたちと一緒に給食を食べる「給食参観」を実施しました。

西原市長は川崎小学校を訪れ、5年1組の児童31人と一緒に五目厚焼きたまご、野菜のナムルなどの5品の料理を囲みました。児童らは「市長さんと一緒に給食を食べることができてうれしい」と笑顔で話してくれました。



給食を食べながら、笑顔で市長と会話を楽しむ児童ら



八木教育長に本を手渡す杉本代表（左）と同会の会員

市民のために役立てて

■まきのはらし図書館ビタミン会図書寄贈

まきのはらし図書館ビタミン会(杉本公恵代表)は1月11日、市役所相良庁舎を訪れ、八木教育長に図書を寄贈しました。

寄贈された図書は相良・榛原図書館へ各7冊。同会が、昨年11月の販売会で得た収益の一部で「市立図書館のために有効活用してもらいたい」と購入したもの。同会は、市内の図書館を支援するために発足されたボランティア団体で、リサイクル図書の販売会などの活動や図書館整備のための積み立ても行っています。



写真右：協定書を手にする田久副市長と竹原義人三戸町長
写真左：協定書を手を握手を交す西原市長と保坂武甲斐市長

4市町と災害協定を締結

■災害時等の相互応援に関する協定調印式

市は1月30日に青森県三戸町と、2月1日には山梨県甲斐市、中央市、昭和町と「災害時等の相互応援に関する協定」を各市役所、町役場で締結しました。

三戸町は青森県の南部に位置し、本市と「友好都市に関する協定」を結んでおり、教育文化や産業、観光などで交流。甲斐市、中央市、昭和町は旧相良町のときから本協定を結び、静波海岸・さがらサンビーチなど海水浴場の誘客支援や産業イベントへの相互の参加などで交流をしています。

これで、昨年3月11日以降に本市が協定を調印した県外の市町は5市3町。今後も継続して協定の締結を行っていきます。

災害対応能力の向上に努める

■平成24年牧之原市消防団出初め式

牧之原市消防団出初め式が1月8日、相良中学校で行われ、420人の団員が参加しました。

式では、昨年9月に実施された県消防操法大会での活躍や勤続年数などに応じた各表彰が行われ、団員らの日ごろの功労がたたえられました。大石公洋団長は、「東日本大震災では、仲間である250人以上の消防団員が殉職した。更なる災害対応能力の向上に努めるとともに、団員の安全を第一に考えていきたい」と訓示。グラウンドでは、操法が披露されました。



グラウンドで一斉放水するポンプ車操法の出場選手ら



重機を使い、流木やゴミを集める参加者

地元の海をいつまでもきれいに

■静波海岸周辺清掃活動

静波区は昨年12月18日、台風の影響で流れ着いた流木やゴミを除去するため、静波海岸周辺の清掃活動を実施しました。

同活動には、同区民や細江区民、榛原高校野球部、関係団体など約90人が参加し、手でゴミを拾ったり、重機を使って流木を撤去したりしました。

約2時間の活動で集められたゴミなどは約25トンにもなりましたが、未だに海岸には流木やゴミが残っており、今後も継続して清掃活動を行う必要があります。

【訂正とお詫び】

前号12ページの「吉田榛原消防署の感謝状贈呈式」の記事で誤りがありましたので、訂正しお詫びします。

●訂正箇所 服部徳治さんの名前のふりがな (誤) *とくじ (正) *とくはる



広報担当がどこにも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎ (23) 0052 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp